

令和4年2月14日

宍粟市議会議長 飯田 吉則 様

文教民生常任委員長 大畑 利明

令和3年度 第1回文教民生常任委員会「おでかけ市議会」報告書

下記のとおり第1回文教民生常任委員会「おでかけ市議会」を行ったので、宍粟市おでかけ市議会実施要綱第8条の規定により報告いたします。

記

| | | |
|---|--|---|
| 1. 開催年月日 | 令和4年1月14日(金) 午後2時00分 ~ 午後3時50分 | |
| 2. 開催場所 | NPOピアサポートひまわりの家 カフェひまわりの家 | |
| 3. 出席委員 | 大畑・田中・中本・垣口・神吉・西本・大久保・飯田 | |
| 4. 意見交換を行った団体の概要 | 団体名 | NPOピアサポートひまわりの家 |
| | 参加人数 | 8名(内担当者との意見交換) |
| | 活動内容 | ひまわりの家と「ひきこもり」~居場所「歩歩-ぼぼ」 |
| 5. 意見交換を行った目的 | 委員会が継続調査を行っている「ひきこもり対策事業」について、ひきこもりサポート事業の現状と課題を調査するため | |
| 6. 意見交換会で出された主な意見(要約) | | |
| 団体からの説明、意見 | | 委員会としての考え方 |
| 1, NPOひまわりの家と「ひきこもり」支援 ①就労に向けて・・・就労継続支援B型作業所 ②居場所、創作活動・・・地域活動支援センター ③無条件の居場所・・・ひきこもりの居場所 ④家から一歩出る・・・共同生活援助(GH) ⑤本人、家族支援・・・KHJ全国ひきこもり家族会 *就労支援だけでなく、居場所も必要である。 就労することができて、人へのしんどさ(対人恐怖・不安)が変わらないと、生きることは相変わらずつらい。就労=ひきこもり脱出ではない。 寄り添い、一緒に考えることが大切。 2, 居場所「歩歩-ぼぼ」について ①居場所とは ・やりたいことをして過ごす場所 | | 1, 宍粟市は、「人と自然が輝き みんなで創る 夢のまち」を理念に掲げています。共生のまちづくりの実現に取り組む中で、ひきこもりなど、社会的に生きづらさや困難性を抱えている方への支援が必要です。 厚生労働省は、支援体制の構築として、全国の市町村に3つの取組みを求めています。本市の取組みは概ねその方向性に基つき実行されています。 国が求める3つの取組みとは、①相談窓口の明確化と周知、②支援対象者の実態やニーズの把握、③市町村プラットフォーム(以下「PF」)の設置・運営ですが、 今後は、PFの取組として、様々な関係機関や社会資源のネットワークにより、多様な相談の入口と多様な支援の選択肢を用意できる仕組みを検討します。 ・多様な機関でひきこもりの相談をキャッチ ・情報を共有し、個々の最適な関係機関等と連携 ・居場所、元当事者・家族等をメンバー |

| | |
|---|---|
| <p>・出たいと思った時に、安心して行ける場所 ・自分らしい生き方を見つける場所</p> <p>②「歩歩」の特徴 元ひきこもりのピアサポーターが在籍する。</p> <p>③「ピアサポーターの活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族との交流（気持ちの代弁、思いの繋ぎ） ・交流会の企画&交流サポート（寄り添いなど） ・手紙を届ける（ひとりではないこと伝える） ・情報発信&お知らせ（一人でも多くに届ける） <p>④居場所での聴き取り（一部抜粋）</p> <p>【助けとして欲しかったもの、あればよかったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害等に差別がない社会 ・ひきこもりなどに理解がある求人 ・気軽な就労体験の機会（継続が目的でないもの） ・動き出すとき、お金がないと動きづらい。 <p>【居場所に来てよかったこと・辛かったことなど】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ境遇の人と出会えたこと、意見を聴けた ・新しい人間関係の構築に意欲が持てた ・思いの吐き出しができた。気持ちが楽になった ・人が居ることが最初はしんどかった ・ここでも人間関係を作るのがしんどい e t c <p>3、現時点での評価、意見など</p> <p>①色々な困難を抱えていることから様々な支援場所や体制が必要である。</p> <p>②居場所「歩歩」の強みは、元ひきこもりのピアサポーターが在籍することですが、これを本業にできる処遇改善が必要である。</p> <p>③「8050」が「9060」になっている。当事者のひきこもり状態に加えて、介護や収入面での問題が出ている。家族会で話し合っている。</p> | <p>2、行政の支援では、「就労支援」に力を入れる傾向が強くありますが、社会的な事象などの背景からひきこまざるを得なかった人にどんな支援が最適なのか、NPOピアサポートひまわりの家の活動及び市の受託事業である居場所「歩歩」の取組みの事務調査から、就労支援だけでなく「無条件の居場所」の必要性和成果を実感することができました。</p> <p>居場所のあり方については、何が本人にとって意味がある支援なのかが問われていますので、前述のPFづくりとともに検討し、行政に働きかけます。</p> <p>3、様々な生きづらさを抱えるひきこもりの方々への支援は、多様な支援の選択肢が必要であるため、複数の居場所と伴走型支援・アウトリーチ型支援体制が必要と考えます。</p> <p>具体的には、市内の南部と北部地域に複数の居場所を設置できるよう検討するとともに、近隣市町に居場所が増えていくよう行政に働きかけます。</p> <p>4、支援体制として重要な要素は、元当事者がピアサポーターとして従事し活躍することです。</p> <p>元当事者がサポートしているから、苦しんでいる方との接点や社会参加へのきっかけを創ることができる。このサポーターの仕事を生業として活躍できる条件を整えるよう行政に働きかけます。</p> <p>5、居場所の聴き取りから、社会としての有り様が発せられています。地域社会にある偏見や差別を除去する動きをつくる必要があるため、あらゆる機会における社会啓発の取組みを行政に働きかけます。</p> <p>6、今後「8050」はさらに深刻化すると言われています。</p> <p>市のひきこもり相談窓口のほか、自立相談支援機関や就業支援などの連携を強化していくことや生活困窮者の支援窓口などの協力体制を求めていきます。</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |
|---|---|